



〒975-0031
福島県南相馬市原町区錦町一丁目 30 番地
TEL:(0244)26-1315
FAX(0244)26-1318
E-mail:sousou.kyouiku@pref.fukushima.lg.jp

令和8年度地域でつながる家庭教育応援事業 家庭教育応援プロジェクト
第1回地域家庭教育推進相双ブロック会議

日時：令和8年6月29日(月)13:30~15:45

家庭教育力の向上

会場：南相馬合同庁舎401会議室

参加人数：構成員 25名 事務局 3名

ねらい：相双域内の社会教育関係者やPTA関係者等による家庭教育の推進や地域教育力の向上を図るため、家庭教育及び地域教育の課題やその解決の方策を協議する。



協議を行いながら、全体で共有を図りました。班ごとに分かれて、課題とそれに対する取組(実践例)を挙げました。

震災・原発事故から15年、相双地域のいま、そしてこれからの子育てについて語り合いました。住民の帰還や移住の促進に伴い、環境が複雑・多様化している相双地域。子どもたちの明るい未来を目指し、学校・PTA・行政機関・地域NPO・子育て応援企業が一堂に会し、熱い協議が行われました。「いま、何ができるか?」「理想論を話し合っているだけでは、先に進まない。」現状を踏まえながら、グループごとに

【協議内容】※ 家庭教育3つの提言を踏まえながら、

課題「家庭への関わり、困りごとについて」

みんなで共有し、今からできることや次年度の取組・方向性について考える。



いま、相双地域が直面している「子育てのリアル」

家庭環境の多様化・孤立化

- ひとり親家庭の増加、移住者・帰還家庭の混在、生活困窮など背景は様々である。
- 「誰にも相談できず、地域や支援制度から孤立してしまう家庭」への早期アプローチと、それぞれの状況に応じた段階的ケアが求められている。

デジタル社会への対応・課題

- スマートフォンやSNSの急速な普及によるネット依存、トラブル、家庭内コミュニケーションの希薄化が深刻である。
- 大人の側が子どもの活用の実態(生成AI等)を正しく理解し、適切な関わり方やルールを共有する必要がある。

複雑化する子ども達の課題

- 不登校、いじめ、非行、生活リズムの乱れなど、子どもを取り巻く課題が多様化・複雑化している。
- これらは単一の要因ではなく、家庭環境や地域コミュニティの希薄化が複合的に関連している状況が確認された。



【明日から実践！】地域全体で取り組む「5つのアクション」

行政・福祉・警察(少年サポートセンター)の役割

・アウトリーチ(届ける支援) ・相談窓口の一元化・可視化

①「困る前に気づく」早期発見・早期アセスメントの推進

※ 就学前(5歳児健診など)の段階から、子どものアウトリーチ(届ける支援)相談窓口の一元化・可視化 発達特性や家庭の困りごとを早期に把握します。

②「待つ支援」から「届ける支援(アウトリーチ)」へ

※ 地域のイベントや自発的な相談窓口に繋がることが難しい「真のニーズ層(孤立しがちな家庭、新住民・帰還家庭)」に対し、健康診断や家庭訪問、個別訪問を体系化し、不安解消から社会参加へ段階的に伴走します。

③スクールソーシャルワーカー(SSW)の配置拡充

※ 「どこに相談すれば、どんな支援が受けられるのか」を保護者や学校現場が一目で理解できるよう、役割を明確化・可視化します。

地域・NPO・企業の役割

・子ども食堂・第3の居場所作り ・地域行事や体験活動の復活

④「家庭・学校以外の安心できる居場所(第3の居場所)」の創出

※ 子ども食堂、地域のスポーツクラブ、子ども会などを再活性化し、子どもと保護者が物理的・心理的に安心できる環境を整備します。

※ 行政や地域団体が主導し、地域の「小さなつながり」を可視化して、情報発信を強化します。

学校・PTAの役割

・情報モラル教育の推進 ・親子でのルール作り推奨

⑤スマホ・ネット・AIへの共同対応(適切な共存ルールの確率)

※ デジタル機器を単に「完全禁止」するのではなく、「適切な共存」を目指します。

※ 子どもへの情報モラル教育のみならず、買い与える側である保護者への啓発機会を定期的に提供し、市町村単位での広域的なルール化を検討します。

【指導・助言】地域・学校・福祉がワンチームに！

日本福祉大学(福島大学名誉教授) 鈴木庸裕 先生から

「子どもや家庭の『生きづらさ』を地域みんなで包み込もう」不登校、困窮、ネット問題……。従来の制度的枠組みで別々の問題として分けるのではなく、子どもや家庭の「生きづらさ」という共通概念として包括的に捉える視点が必要です。学校や単一の機関だけで完結させる発想から脱却し、相互に補完し合う連携・協働を進めましょう。まずは「**小さな実践**」を試行し、検証を繰り返しながら、地域全体で継続的な改善を図ることが望めます。

令和8年度第2回地域家庭教育推進相双ブロック会議のテーマ【明日から実践！】

①～⑤の各項目について、それぞれの現場で実際に取り組むことができたかどうか、その歩みを第2回ブロック会議で取り上げます。それぞれの立場から「地域全体で紡ぐ家庭教育支援」を具体化することができたかどうか、率直な現状やお考えをお尋ねします。単に「できたか・できなかったか」という結果だけではなく、「実践してみて、見えてきた手応え」や「連携を進める上で直面した新たな課題」も含め、明日からのさらなる実践に繋がる有意義な検証を行います。皆様の現場でのリアルな気づきやご意見を、どうぞよろしくお願いいたします。

7月8日 発行

